
花が香る

秋月鞠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

花が香る

【Nコード】

N1634U

【作者名】

秋月鞠

【あらすじ】

とある植物館の館長を務める男。

彼が愛するのは4つの美しい香りを持つ花

そして4つの花の特徴をもつ女性。

彼は花に翻弄され、女に翻弄される。

花が熟して香りが充満するとき

彼はその精神を保つことができるのだろうか。

花が香る。

バラ、ユリ、ジャスミン、キンモクセイ。

すべてが混ざれば毒々しい。

一つ一つは皆、純粋な香りなのに、難しいほどにそれぞれが絡み合
って複雑にしまっている。

消灯した植物園で五感を刺激するのはそこに残された花々たち。自
然の中では決して同じ季節に咲くことのない花たち。

「館長、まだいらしたのですか」白いステンレスの格子扉が開いた。
外のほのかな街灯の光が、悠子のシルエットを黒く浮かび上がらせ
た。

彼女が戸の留め具をつけるためにかがみこむと、長い髪が波打ち、
腰でベルトを巻いたワンピースから白い太ももが微かに露わになっ
た。

「誰もいないこの花園の中に私一人、こんな最上の幸せが他にある
かい。それを君は邪魔して」わたしが睨むと。彼女はちらりと私を
見て冷めた様子で立ち上がった。

「それなら、休館日におひとりでお出でになればいいじゃないです
か。こういう日は残業があるので手伝って頂かないと困りま
すよ」

「だって君、こうして一日中人々の目に晒されていたのが。急に
誰もいなくなつて哀愁に漂う中に一人で佇んでいるのがいいんじゃないか」私は深く、深く息を吸った。

「あなたという人はどこまでロマンチストなの。そこまでいったら
もはや変人の領域じゃありませんか」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1634u/>

花が香る

2011年10月9日06時40分発行